

(別記)

2019 年度中富良野町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

高齢化の進展に伴う農家戸数の減少により、今後さらに一戸当たりの農地面積が増加する見通しであり、労働力、農業機械の更新、農業施設（ハウス・格納庫）更新の確保が課題となっている。茎葉菜類・果菜類の作付面積も概ね定着化している現状から、大規模化する経営に対応して行くため、土地利用型作物を取り入れた輪作体系の確立を図る必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

米の需要が不透明な中で、消費者ニーズに沿ったクリーン米などの高品質米の生産に取り組む。

(2) 非主食用米

- ア 飼料用米：今後の水稲作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。
- イ 米粉用米：今後の水稲作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。
- ウ 新市場開拓用米：今後の水稲作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。
- エ WCS 用稲：今後の水稲作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。
- オ 加工用米：需要に応じた生産を行うため、従来の加工米飯・酒造用に加え、新たに焼耐用の需要の増に対応するため、継続的に作付を推進する。
- カ 備蓄米：備蓄米総量に増加する予定はないことから、政府在庫の状況により作付の有無を判断し、需要に応じて生産に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦類については、高齢化が進み農家戸数が減少する中、担い手への農地集積を進めるとともに、経営面積の増加に対応し得る土地利用型作物として位置づけ、基本技術の励行により収量と品質を確保していく。適正作付を推進し転作体系の確立を図る。基盤整備事業で透排水性が大きく改善され、融雪水の滞水もなく乾土効果が期待出来る。また、適期防除、適期収穫による品質と生産性の向上と合わせて、機械の作業効率が高まり、労働力軽減・コスト低減が期待される。

大豆はここ数年、天候の影響を受け収量・品質とも低下傾向であるため、作付面積の減少が見込まれるが、基本技術の励行により対応強化を図る。

飼料作物では、作付面積が安定的に維持されており、今後も自家利用および有畜農家への安定供給に努め、継続して地域農業に貢献する。

(4) そば、なたね

そばについては、収量確保のため湿害対策には十分留意するとともに、適正な肥培管理により品質の安定化を図る。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

玉葱については実需者からのニーズも高く、産地と連携した取組みで、ブランド化を図っており基幹作物として作付面積の維持、拡大を図る。現在、生産性向上の取組として排水対策、ほ場条件の改善（用水のパイプライン化で早魃時のかん水＝地上かん水、地下かんがいの併用が可能）を進めており、適期移植、適期防除が可能となる。併せて、麦との輪作も体系化するなどして品質・収量の改善向上に取り組んでいる。

アスパラ、南瓜、スイートコーン、トマトなどの地域振興作物については、作付面積の集約も進展し、栽培技術の確立による収量・品質の高水準での定着化を目指している。また、基盤整備事業によるほ場の諸条件の整備も進んでおり、今後において生産性の向上と合わせて、労働力軽減・コスト低減が期待される。

その他の野菜、花き・花木、果樹では、経営規模の拡大が進む担い手に支援を行い、農地の効果的な活用を促進する。

(6) 畑地化の推進

今後の作付動向を考慮し、適宜に取り組む。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1219.4	1201.8	1217.0
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦	460.8	515.9	470.0
大豆	61.1	49.6	72.0
飼料作物	102.0	103.3	92.0
そば	0.0	2.0	0.6
なたね			
その他地域振興作物			
野菜			
・玉ねぎ	765.1	765.1	765.1
・スイートコーン	82.1	72.9	80.0
・トマト	8.7	9.6	8.4
・馬鈴しょ	39.6	24.8	40.0
・てん菜	13.8	10.7	15.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	野菜（人参、スイートコーン、アスパラ、トマト（ミニトマト含む）、イチゴ、長ネギ、メロン、南瓜、スイカ、ホウレン草、玉葱）	地域振興作物助成	作付面積	(2018年度) 1029.3ha	(2020年度) 1035.0ha
2	ハウス栽培野菜（人参、スイートコーン、アスパラ、トマト（ミニトマト含む）、イチゴ、長ネギ、メロン、南瓜、スイカ、ホウレン草、玉葱）	ハウス栽培加算（地域振興作物助成）	作付面積	(2018年度) 58.8ha	(2020年度) 59.5ha
3	野菜、花卉、果樹、花木の作物（新規需要米は除く）（作物名は個票備考欄に記載）	地域振興作物助成	作付面積	(2018年度) 43.2ha	(2020年度) 44.5ha
4	馬鈴薯（生食・加工・種子）	地域振興作物助成	作付面積	(2018年度) 39.5ha	(2020年度) 41.5ha
5	そば	そば作付助成	作付面積 反収	(2018年度) 0.0ha (2018年度) 0.0kg	(2020年度) 0.6ha (2020年度) 72.0kg
6	てん菜	地域振興作物助成	作付面積 反収	(2018年度) 13.5ha (2018年度) 5,200kg	(2020年度) 15.0ha (2020年度) 5,755kg
7	麦（小麦・大麦）、大豆（黒大豆含む）、飼料作物（WCS用稲、飼料用米を除く）	戦略作物助成	作付面積 反収（秋小麦） 反収（春小麦） 反収（大麦） 反収（大豆）	(2018年度) 621.5ha (2018年度) 366.0kg (2018年度) 210.0kg (2018年度) 246.0kg (2018年度) 240.0kg	(2020年度) 626.0ha (2020年度) 423.0kg (2020年度) 296.0kg (2020年度) 341.0kg (2020年度) 244.0kg
8	小豆、インゲン、豌豆	地域振興作物助成（畑作物）	作付面積 反収	(2018年度) 1.5ha (2018年度) 180.0kg	(2020年度) 1.7ha (2020年度) 243.0kg

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり